別　紙

参　考　資　料

≪　目　次　≫

＜参考資料1＞

広島・日本が抱える課題と「広島版「学びの変革」アクション・プラン」の関係について(イメージ)　・・・　P.1

＜参考資料2＞

グローバルリーダー育成校(イメージ)　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P.3

【参考資料1】広島・日本が抱える課題と「広島版「学びの変革」アクション・プラン」の関係について（イメージ）

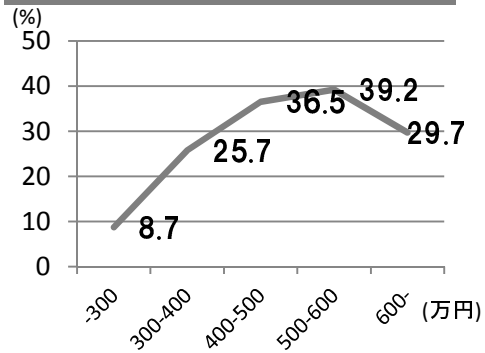
（　広島発「人材育成を通じた地方創生」　～「グローカル人材」の育成で切り開く「広島の未来」～　）

地方創生　＝

人口減少対策　×　グローバル化対策

［主として自然減に係る現状］

◆年収別の既婚割合（男性）



◆結婚を決心する状況

★経済的に余裕ができること
→　46.3%　**＜全選択肢中トップ＞**
（全国調査）

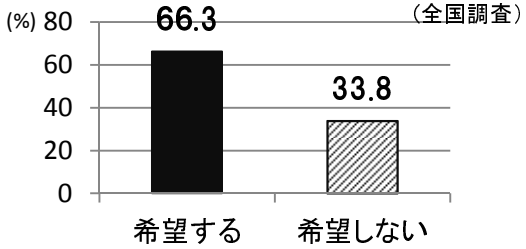
◆理想の子供数を持たない理由

★子育て等にお金がかかりすぎる
→　60.4%　**＜全選択肢中トップ＞**
（全国調査）

【視点①】
結婚・出産には
若者の経済的自立が不可欠

［主として社会減に係る現状］

◆地元就職を希望する大学生の割合



（全国調査）

◆地元就職を希望しない理由

★志望する企業がないから
→　35.2%　**＜全選択肢中トップ＞**
（全国調査）

◆農山漁村への定住を希望する人

★都市部在住者のうち，31.6%
＜平成17年調査との比較で11.0ポイント増＞
（全国調査）

◆定住実現に必要なこと

★仕事があること　→　61.6%
（全国調査）

【視点②】
地方への定住意欲が高まる中，
最大の障壁は「仕事の有無」

［経済への影響］

◆県経済へのグローバル化の影響

＜貿易額＞
［H14］**1.5**兆円
→　［H24］**3.0**兆円
（うちアジア45%）

＜海外進出＞
［H14］**312**事業所
→　［H24］**663**事業所
（うちアジア75%）

◆海外拠点の設置・運営の課題

★グローバル人材の確保・育成
→　74.1%　**＜全選択肢中トップ＞**
（全国調査）

◆外資系企業の日本進出阻害要因

★人材確保の難しさ　→　32%
★外国語によるコミュニケーションの難しさ　→　41%
（全国調査）

【視点③】
県内企業のグローバル化，
グローバル企業の県内誘致，
いずれも必要なのは「人材」

［広島の使命と日本全体の課題］

◆広島の国際的な役割への期待

★国際平和の拠点　→　97.3%
★国際交流の拠点　→　73.0%
（中国地方経済界への意識調査）

◆国連事務局で活躍する日本人の現状

順位・国名	職員数	国連の考える望ましい職員数
1　米国	274	414
2　英国	108	128
3　ドイツ	103	154
4　フランス	102	120
5　イタリア	86	99
6　カナダ	74	66
7　中国	65	97
8　日本	**60**	**238**
9　メキシコ	46	52

【視点④】
「広島の使命」と「日本の課題」，
この「結節点」は
「国際社会の持続的な平和と発展に
貢献できる人材の育成」

地方創生の鍵を握る「４つの視点」を踏まえた今後の方向性

グローバル化

「地域」と「世界」が直接つながる

☆ 一国を越えた国際的な協議
☆ 地域コミュニティの再構築やローカルな意思決定　　が増加

求められる人材

**「広島で学んだことに誇りを持ち，胸を張って広島を語り，
世界の人々と協働して新たな価値を生み出すことのできる人材」（グローカル人材）**

＜ **広島で育てたい２つの「グローカル人材」** ＞

→ 両者の協働により，イノベーションが実現

国際的な視野を持ち，新しい産業活力を生み出すことのできる人材

～世界を相手に，広島で活躍する～

＜「広島に住みたい，広島で働きたい，広島で産み育てたい」の実現に向けた支援＞

持続可能な社会の構築や国際社会の平和と発展に貢献する人材

～広島を思い，世界をリードする。
逞しくなって，いずれはまた，広島に～

＜「広島から大きく世界に羽ばたきたい」の実現に向けた支援＞

■ コンピテンシーの育成を目指した能動的な学びの充実（広島版学びの変革）

・全県的な課題発見・解決学習の推進
→ 地域や広島の課題を自ら発見し，他者と議論・協働して解決策を導く力を育成
→ 「答えのない課題」にチャレンジし，「高度なリスクをマネジメントする力」を育成
→ 「実社会との関連」を意識した教育により，すべての生徒が「学びの価値」を実感

■ 全県的な異文化間協働活動の推進

・小中：グローバル・キャンプ，高校：海外留学，海外姉妹校との交流
（※広島県では，既に全ての県立学校が海外の学校と姉妹校提携を締結済）
→ 国際的な視野，異文化理解力などを育成（世界がより身近に）

■ 「広島県教育フォーラム」における解決策の発表→解決策の実行

→ 企業・地域との協働により生み出した「課題解決策」の実行による新産業の創出（ex. 広島県立油木高等学校，島根県立隠岐島前高等学校）

■ 定時制・通信制の枠組みを超えたフレキシブルスクール（仮称）の創設

・生徒の多様なニーズに応える柔軟な学びを提供する学校を，広島市と共同で整備
・単位制，定時制・通信制の併修可能，幅広い授業時間帯の中から授業選択可能
→ 人生のどの時点でも必要な力を身に付け，ステップアップすることが可能に
（少子化の中にあって，誰一人としてドロップアウトさせない環境を構築）

■ 県内各地域の拠点となる中高一貫教育校の設置

→ 広島グローバルリーダー育成校における先導的取組を各地域に展開し，地域全体の教育水準を向上
→ 実践的な課題発見・解決学習により，地域課題の解決や地域の活性化に貢献

■ 複数の専門学科からなる専門高校の設置

→ 「産業と産業をつなぐ」，新たな産業活力の創出者を育成

■ 地域の医療や教育を支える人材を育成する学校の整備

→ 「地域の生命線」の担い手を育成

■ 広島グローバルリーダー育成校（仮称）の創設

・世界中の「国際社会の持続的な平和と発展に貢献したい」志を持った生徒が集う，国連・OECD・文部科学省・外務省・民間企業等との連携による全寮制中高一貫校
・先進国のみならず，アジア・アフリカなど，様々な国から生徒を受入れ
・低廉な授業料により，家庭の経済状況によらず，幅広い生徒を受入れ
（格差の再生産・固定化の改善，多様性の確保）
→ 広島に対する生徒・卒業生の深い愛着の涵養
（世界に羽ばたいても，心はいつも広島に）
→ 「国際平和拠点・国際交流拠点　広島」の実現
→ 広島に対する新たな国際的イメージの確立
→ 国際舞台における日本・広島の発言力・発信力の強化

【参考資料2-1】グローバルリーダー育成校（イメージ） － GL校のミッション・育成すべき人材像 －

School mission
≪学校の使命≫

持続可能な社会を構築し，国際社会の平和と発展に貢献できる人材の育成
－ 人類の共存共栄に向けて，答えのない諸課題に対し，失敗を恐れず果敢に挑戦し続けることのできるリーダーを育てる －

◆ 世界を取り巻く現状

- 「グローバル化の急速な進展」や「世界人口の爆発的な増加」などを背景として，解決すべき地球規模の問題が深刻化（我が国にも相当な影響）
- 持続可能な社会の構築に向けて，国際機関等の役割や，開発途上国における社会的課題の解決に向けた新しい事業活動への期待が高まっている

《グローバル化の進展》

冷戦構造の終焉
- 市場経済の拡大
- 情報通信技術の飛躍的発展

人・物・金・情報が国境を越えて大量・高速に移動
－ 世界の相互依存関係が深化 －

《世界人口の推移》

1990年（H 2） 53億人
2015年（H27） 73億人
2050年（H62） 95億人

・開発途上国 86.4%
・アジア 51億人
・アフリカ 24億人

－総務省統計局資料－

《地球規模の問題が深刻化 ～相互に複雑に関連～ 》

【国際紛争】紛争地域に住んでいる人；約23億人
【地球環境・エネルギー問題】温暖化，オゾン層破壊，異常気象・・・
【大規模災害】被災者数；約2億人/年，損失；約1千億ドル/年
【食糧問題】飢餓や栄養不良に苦しむ人；約8億人
【貧困・格差拡大】1日1.25ドル以下で生活している人；約14億人

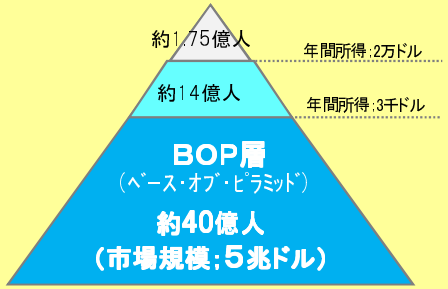
《国際機関の役割が増大》

【国連予算】通常予算；10年で 2倍（約52億ドル/2ヶ年）
PKO予算；10年で 4倍（約71億ドル/年）

－外務省，国連HP等 －

《新しい事業活動への期待》

途上国の低所得層への事業活動を通じた社会的課題の解決（BOPビジネス）
例）水質浄化剤，マラリア予防ネット，農業用ポンプ・・・
※ 国内市場が縮小する中，地域産業の活性化にも繋がるチャンス（Win-Winの関係構築）



－経済産業省作成資料 －

◆ 日本を取り巻く現状

- 資源や食料等の多くを海外に依存する日本にとって，地球規模の諸問題の解決は，国内各地域の持続的な発展に不可欠だが，BOPビジネス分野では出遅れ
- ODAなどの経済的支援だけでなく，国際的な交渉・決め事の場における日本のプレゼンス（存在感・影響力）の向上が求められる

《日本の海外依存度》

エネルギー自給率；4％ （先進34ヶ国中33位）
食料自給率；39％（先進国の中でも最低水準）

－農林水産省・経済産業省HP－

《日本のODA（政府開発援助）実績》

支出総額；227億ドル（世界第2位）
支出純額；117億ドル（世界第4位）
※ 支出純額＝支出総額-貸付返済額

－外務省HP－

《国際機関等の日本人職員の状況》

国連関係機関の日本人職員割合；約2.5％（8百人/全3万人）
国連事務局の日本人職員数；60人（望ましい職員数238人）

－国連資料等－

◆ 広島を取り巻く現状

- グローバル化は県内経済や日常生活に至る広範な分野に影響する一方，近い将来，働き手の中心となる生産年齢人口は大幅に減少する見込
- 広島の国際的な役割への期待が高まる中，持続可能な社会の構築に向けて，広島と世界をつなぎ，イノベーションを創出できる人材の育成が急務

《県内のグローバル化の影響》

貿 易 額; [H14] 1.5兆円 → [H24] 3.0兆円 (うちアジア45%)
海外進出; [H14] 312事業所 → [H24] 663事業所 (うちアジア75%)
外国人観光客; [H14] 30万人 → [H24] 70万人
外国人労働者; [H14] 2.8万人 → [H24] 3.9万人

《人口減少・少子高齢化の影響》

（単位:万人）

区 分	H22	H42	増 減
総 人 口	286	260	▲26
65歳以上	68	84	＋16
15～65歳	179	148	▲31
14歳以下	39	28	▲11

《広島の国際的な役割への期待》

国際平和の拠点 → 97.3%
国際交流の拠点 → 73.0%
（※中国地方経済界への意識調査）

進むべき方向性

広島はもとより，国際社会全体の持続的な発展のため，世界中の人々と協働・協調し，解決策や新たな価値を創造できるリーダー育成校を創設

- ✓ 広島に対する生徒・卒業生の深い愛着の涵養（世界に羽ばたいても，心はいつも広島に）
- ✓ 「国際平和拠点・国際交流拠点 広島」の実現
- ✓ 広島に対する新たな国際的イメージの確立
- ✓ 国際舞台における日本・広島の発言力・発信力強化

GL校の基本コンセプト

- 世界の将来を担う「高い志」と「情熱」を持った子供たちが「広島」で学ぶ
  ～先進国のみならず，アジアやアフリカなど様々な国・地域から生徒を受入
- 異なる価値観を持つ者同士が全寮制の中高一貫教育校で「広島」に学ぶ
  ～貧困や紛争等の問題を抱える国の生徒と協働し，すべての人々が“善く生きる”ことのできる社会の実現に向けて，答えのない課題から最善解を導き出す教育活動を展開
  例） 国際機関等と連携したプロジェクト学習，広島の強みを生かした体験活動

- 広島での経験を糧に，「広島の心・日本の心(※)」を持ったリーダーが，世界中の様々な舞台で，持続可能な社会の構築や国際社会の平和と発展のために貢献
  ※ 和の精神（共存共栄，調和・融合），もったいないの精神，礼節・勤勉・謙虚・思いやり など

≪将来の活躍ステージ（例）≫

・国際機関（ユニセフ・OECD・ユネスコ等）
・国際NGO（国境なき医師団等）
・新たな価値を創造するﾋﾞｼﾞﾈｽﾘｰﾀﾞｰ
・社会的起業家 など

≪そこから逆算した大学等の進路設定（例）≫

国際機関等に人材を多く輩出している国際的な大学(院)など
- Columbia University - Harvard University
- Georgetown University - University of Oxford
- London School of Economics and Political Science 等

【参考資料2-2】グローバルリーダー育成校（イメージ） － GL校の教育プログラムの特色（イメージ） －

◆ 国際機関等と連携したプロジェクト学習

- 広島の歴史や現状などを知り，諸外国との共通点や差異などについて考えた上で，現実の諸課題について生徒自身が解決策を創造し，異なる他者と協働しながら実行
- これを通じ，広島に対する深い理解と愛着を培うとともに，「国境や思想を越えて協働することの大切さ・困難さ」や「失敗を恐れず挑戦し続けることの大切さ」などを理解し，「国際社会の平和や発展のために，自分たちにもできることがある」ということを実感

<取り組む課題の例>

例①　国際平和探究

・広島の歴史，戦争・紛争が起こるメカニズム，国際社会の現状などについて調べ，分析した上で，現に戦争・紛争が起こっている又は戦争・紛争からの復興途上である国・地域に対し，自分たちに何ができるかを検討
・その方策を国内・諸外国の関係者（国際機関，国際NGOなど）に提案した上で，双方と協働しながら実行

例②　広島・諸外国の課題解決・魅力向上

・広島県（の特定地域）と諸外国（の特定地域）の課題や魅力について調べ，その共通点・差異について分析し，課題解決策・魅力向上策を創造
・それを国内・諸外国の関係者（自治体，企業など）に発表した上で，双方と協働しながら実行

例③　持続可能な社会の構築

・持続可能な社会の構築に向けて，何が課題となっているのかなどについて調べ，特に先進国と新興国などの意見の対立などについて分析し，その解決策を創造
・それを先進国・新興国の関係者（行政，企業など）に発表した上で，双方と協働しながら実行

◆ 教科横断の探究型学習

- 自然科学（物理・化学・生物・地学等），社会科学（政治・経済・社会・歴史等），人文科学（哲学・歴史・文学）等をテーマとした探究学習を通して，教科を横断した総合的な学習を実践

※ 国際バカロレア（MYP/DP）の導入を検討

◆ 授業で使用する言語

【中学校】 日本語　～ コミュニケーションやプレゼンテーションの基礎となる論理的思考力や表現力等の修得
【高　校】 英　語　～ 英語による情報収集・活用能力や実践的なコミュニケーション能力等の修得

◆ 6年間の中高一貫教育

- 中1～高1；国際バカロレア/ミドル・イヤー・プログラム（MYP），高2～3；国際バカロレア/ディプロマ・プログラム（DP）
- 2学期制，中学校；4月～，高校；9月～（海外から入学する留学生等への配慮，海外大学への円滑な接続）

※　中学校授業終了後から高校授業開始までの期間を活用し，海外留学やボランティア活動など，各生徒が主体的な学びを実践

◆ 全寮制による全人教育

- 異文化・異年齢による集団生活　～ 多様性の受容・アイデンティティの確立・協調性・社会性・自律性・コミュニケーション能力等の育成
- 最上級生による各ハウスの秩序維持や生活による主体的なハウス運営　～ リーダーシップ・フォロアーシップの育成

“広島に対する深い愛着” とともに，世界の舞台で通用する “高度な資質・能力（論理的思考・表現力，課題発見・解決力など）” を育成

【参考資料2-3】グローバルリーダー育成校（イメージ） － GL校をコアとした「広島教育ブランド」の確立 －

【STEP1】 グローバルリーダー育成校（GL校）による県立学校全体の教育水準の底上げ

➢ 国連，OECD，文部科学省，外務省，民間企業等との連携により，世界に例のない独創的な教育モデルを構築し，県内の県立学校に還元

プロジェクト学習　国際バカロレア　全寮制　多様性　中高一貫教育

◆ 国内大学受験に捉われない突き抜けた全人教育を実践
◆ 社会の変化に応じて進化し続ける，学び続ける学校
◆ 常に広島県の新しい教育を牽引し続ける学校

全ての県立学校にノウハウや成果を還元

✓ 教授法の伝授による教員のスキルアップ
- 児童生徒の能動的な学びを促す教授法
- e-ラーニングによる反転学習の手法　など

✓ コンテンツの提供による教育内容の充実
- 課題発見・解決力等の育成に効果的な実践事例
- e-ラーニングの実践事例　など

広島版「学びの変革」アクション・プラン
に掲げる取組を強力にバックアップ

【STEP2】 国・公・私の枠を超えたオール広島県での教育水準の向上

➢ 志を同じくする県内の国公私立学校が連携し，GL校をコアとしたグローバル教育学校群を形成
～全国に先駆けた先進的な取組の共有化により，広島県全体の教育水準を最大限に引き上げる

≪連携事例（イメージ）≫

プロジェクト学習合同実施	教員合同研修	サマースクール共同開催	産学官コンソーシアムの形成
・各校選抜メンバーによるプロジェクトの企画運営 ・学校別や学校横断グループによる個別テーマ設定・解決策創造	・GL校での授業研究会 ・国際バカロレア教員ワークショップ開催 ・教員人事交流（短期派遣等）	県内の児童生徒が減少する中，県外・海外から留学生・帰国生等を積極的に広島へ受入	企業，大学，学校法人，行政等がタッグを組んでGL校を中心としたグローバル教育学校群の取組を支援

〔グローバル教育学校群〕

広島で学んで良かったと思える日本一の教育県の創造 ⇒「広島教育ブランドの確立」

＜イメージ＞　GL校が中核（コア）となり実現する広島県全体の「学びの変革」（＝広島教育ブランドの確立）

県立広島中学・高等学校

＜現状と課題＞
・県内のリーディング校として、着実な進学実績を上げているが、
　その更なる向上を図るとともに，
　今後の大学入試改革等に対応した教育なども必要

→ **GL校における「課題発見・解決学習」などのノウハウ共有により、今後の大学入試改革において重視される力**（自身の経験や思いを表現する力、知的好奇心に基づき探究する力など）**などが向上**

私立学校等

→ **定期的な情報交換会などの開催によるノウハウの共有**

→ **教育フォーラムなどをはじめとする生徒同士の交流・協働**

→ **サマースクールの共同開催による留学生の受入れ拡大**

Ｇ Ｌ 校
（学びの変革の中 核（コ ア））

＜GL校が果たすべき役割・機能＞
- パイロット・モデル校として，思い切った「課題発見・解決学習」「異文化間協働活動」などを展開し，実践事例を蓄積
- E-learningシステムや各種研修会などを通じ，実践事例やノウハウを県内各学校・教員に広く発信
- 各校の求めに応じて，支援，相談，情報提供を行うなど，センター的機能を発揮

各地域の拠点となる中高一貫校

＜現状と課題＞
・「課題発見・解決学習」「異文化間協働活動」などを展開する中で、
　困難に直面した際、支援を依頼したり相談したりする相手が不足
・地域で育ってきた生徒たちの視野を拡大させることが必要
　（＋人口減少対策、地域活性化への対応）

→ **GL校との緊密な連携による支援・相談体制の構築**
→ **GL校の生徒との協働による「課題発見・解決学習」の実施**
（「ローカル」と「グローバル」の協働によるイノベーション（新産業等）の創出）

各公立学校

＜現状と課題＞
・「課題発見・解決学習」などについて目指すべき具体的な姿が分からない
・「課題発見・解決学習」「異文化間協働活動」を実践できる教員の不足

→ **各校が目指すべき具体的な姿（モデル）が明確化**
→ **GL校におけるあらゆる教育実践をWeb上に保存・蓄積し、E-learningシステムを活用して県内すべての学校・教員が参照可能**
→ **GL校教員との共同研修の実施**
→ **GL校で経験を積んだ教員が、将来的にはリーダーとして各校で勤務**